

## 連携機関ご紹介コーナー

### 医療法人かどます 佐々木医院

理事長 佐々木 龍司 Ryuji Sasaki  
(安芸高田市医師会副会長)

昭和56年4月／慈恵医大卒業、その後同大学で研修。第二外科に入局。  
平成元年4月／父が病に倒れ、後を継いで開業。

趣味・リフレッシュ方法／月に1回の船釣りやゴルフのアウトドアで、リフレッシュしています。  
モットー／病める患者さんに対しやさしく接すること。



医療法人かどます 佐々木医院

住 所 安芸高田市向原町坂428-2  
開 院 昭和26年9月  
標榜科 外科・内科・整形外科・胃腸内科

#### 毎日の診療で大切にされていることは何ですか

患者さんの話を親身に聞いて、何を訴えているかを理解してあげることです。

#### 自院のやりがいは何ですか

平成26年12月で病床を休止し、外来診療を中心に地域医療に貢献しています。今後も在宅医療・かかりつけ医として、地域住民の方々の不安を解消していくことです。



#### JA吉田総合病院に臨むこと

今までも、紹介患者さんや救急患者さんの受入をお願いしているが、今後も地域の中核病院として、引き続き診療をお願いします。

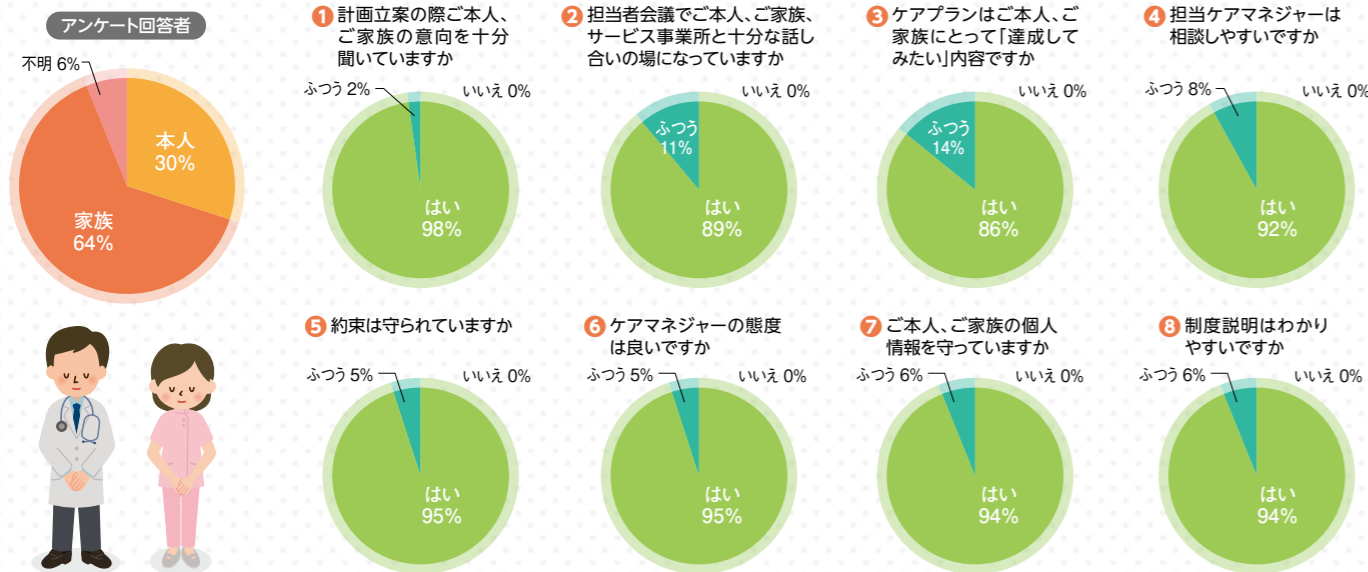
## 居宅介護支援事業所

### 平成27年度 ご利用者・ご家族の満足度調査 集計結果 /



本年度も満足度調査にご協力頂き、ありがとうございました。結果をまとめましたので報告させていただきます。

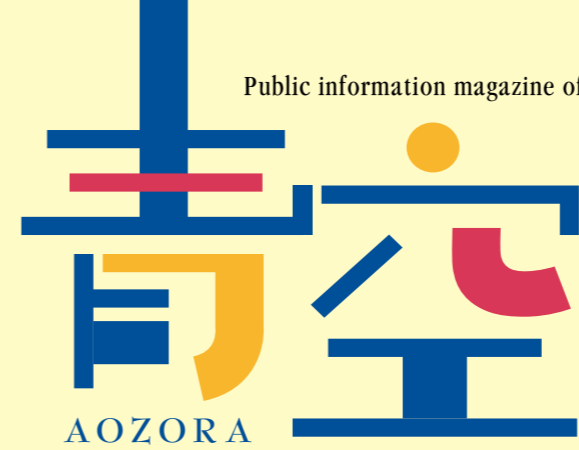
アンケート配布期間：平成27年9月～10月31日  
【配付】99件 【回収】66件（回収率：66.7%）



「いつも親切丁寧で説明してもらい、明るく対応してもらっています」「大変良く相談にのっていただいています」などの励みになるご意見をいただきました。「①計画立案時、ご意向を十分に聞いていますか」の問いには98%の方に「はい」と答えていただき、高い評価をいただきました。全体の設問を通して「いいえ」の回答がなかったことは、一定の評価をいただけたと安堵しております。

今年度は事業所内研修の一環として、互いのケアマネジャーの担当者会議に出席し、会議の進行や内容について確認しあいました。「②担当者会議は十分な話し合いの場になっていますか」には11%の方に「ふつう」と回答頂き、「③ケアプランは達成してみたい内容ですか」には「はい」の回答がもっとも低く86%でした。今後も生活機能の維持や、意欲向上のための会議や目標、計画となるよう事業所

内外で検討、学習して参ります。平成27年度は特別養護老人ホームの入居要件変更(介護3以上)、介護報酬(利用料)の変更、負担割合の変更(一律1割負担から収入に応じた割合に変更)などの介護保険制度の改正がありました。今後も制度改正は一定ごとに繰り返されますが、私達自らが制度を理解し、よりご理解いただける情報提供ができるよう技術を学んで参ります。



やさしい心で  
良質な医療を。

新春号

vol.48

JA吉田総合病院

発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院  
〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666  
Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007  
2016年(平成28年)1月発行  
http://yoshida-gene-hospi.jp/

Facebookを開きました



## 老人保健施設のぞみ

老人保健施設のぞみ 事務長 川原 正記



皆様は、「老人保健施設」という介護施設をご存知でしょうか。

老人保健施設とは、病院から在宅への橋渡しという大切な役割を担い、生活機能の維持・向上と自立した在宅生活を支援する施設として設立されました。

#### ② 通所系サービス

- 通所リハビリテーション(デイケア) [定員30名]

#### ③ 介護予防

- 介護予防短期入所療養介護
- 介護予防通所リハビリテーション

属の理学療法士による利用者様の身体状況に合わせた、短期集中リハビリテーションや個別リハビリテーションの提供

③ 短期入所・通所リハビリテーションを利用して継続的な在宅療養の支援

④ 在宅復帰に向けたサービス実施体制の強化

今後も、利用者様に満足と安心を提供できる施設になれるよう、スタッフ一同努力してまいります。

引き続き、地域の皆様、医療・介護の関係機関の皆様には、暖かいご理解とご支援をお願いいたします。



### 満足と安心を提供できる施設に

介護を取り巻く環境は、相変わらず厳しい状況が続いておりますが、在宅での医療・介護連携を目指す地域包括ケアシステムが推進されており、「より在宅へ」という施策が鮮明に打ち出されてきております。

当施設においては、50%以上の方が在宅復帰されております。今後も継続していくためには、以下のことを一層取り組んでいく必要があります。

#### ① 施設系サービス [定員60床]

- 長期入所
- 短期入所療養介護(ショートステイ)

- ① 今まで以上に利用者様やその家族の方を含めた他職種との連携
- ② 老人保健施設の特徴でもある、専

#### 基本理念

1. 私たちは何人にも平等に医療を提供します。
2. 私たちは地域の基幹病院として、最良の医療を提供します。
3. 私たちは納得と同意のもとに信頼される医療を提供します。

#### 基本方針

1. やさしい心で安全・良質な医療・保健・福祉サービスを提供します。
2. 医療を受ける人びとの人格、権利を尊重し、全ての人に貢献します。
3. 生涯学習の精神を保ち、知識と技術の習得に努めるとともに、医療の質向上に尽くします。
4. 努力と強調で健全経営に努め、明るい職場をつくります。
5. 病院の公共性を重んじ、事業を通じて地域に尽くすとともに、法規を遵守します。

AOZORA  
NEWS!

## 第1回 市民公開講座を開催しました

平成27年度 安芸高田市在宅医療・介護連携推進事業としてJA吉田総合病院が受託を受け、安芸高田市内の医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、ケアマネージャー、介護職員などの多職種からなるワーキング会議と安芸高田市の共催により、12月12日(土)市民文化センターで住民約200人が参加して、第1回市民公開講座を開催しました。「最期まで笑顔で生き抜く～ともに暮らそう住み慣れたこのまちで～」をテーマに、退院支援から生活の場における療養支援、急変時の対応、施設・在宅での看取りまで包括的に提供できる地域体制づくりについて学びました。

まず、JA吉田総合病院の繁田直史診療部長が外科治療の現状について、沖田進司診療部長が高齢者に多い脳神経外科疾患について講演しました。



その後、病院職員・安芸高田市の医療福祉関係者でつくる「劇団安芸☆高田」による住み慣れたまちで最期まで笑顔で生きるため、地域資源をいかに

使って在宅で看取るかをテーマに寸劇を披露しました。参加者は楽しく、時に涙しながら自分のこととして鑑賞しました。



特別講演として、北広島町芸北ホリスティックセンター雄鹿原診療所長 東條環樹医師による「いきいきと生きて逝くために～自分の最期を考えること～」と題し、自分はこれからどのような最期を迎えたいか、穏やかな最期を迎えるためには、地域で最期まで暮らしたい本人・家族の望みを叶えるために、行政を含めた多職種の協働はどうあるべきかをみんなで考えました。



## 院内ボランティア研修会 [12月24日]

年末を控え院内ボランティア対象に、1年の労に報いるために、講師に草月流 鈴木喜翔先生をお迎えして「正月花の創作」の研修会を開催いたしました。

院内ボランティア35名中、19名の方にご参加いただきました。最初に鈴木先生のお手本の説明をみんなで聞き、各自創作に取り掛かりました。先生が、各自の作品を添削して回りながら適切なアドバイスをされ、みんなで楽しい時間を過ごす事ができました。

また、来年も健康に気を付け院内ボランティアを楽しみとして取り組むことを誓い閉会いたしました。



## Xmas 🎄 コンサート [12月25日]

入院患者様・地域の皆様に、クリスマスの楽しいひと時を過ごしていただきたいとXmasコンサートを開催し、約80名の方の参加がありました。

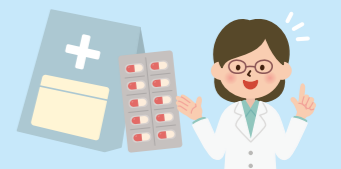
JA吉田総合病院看護科長会のメンバーで結成している「そよ風コーラス」による、「ベストフレンド」「糸」「クリスマスメドレー」等の合唱と華やかな振り付で、普段の白衣をブルーのドレスに着替えいつもより近くで患者さんと触れ合うことができました。

また、響マーケット三重奏団、みわオケ合奏団による本格的な合奏も聴くことができ、クリスマスムードを一層深め楽しい時間となりました。



## 医薬品の適正使用のための取り組み ～医薬品集(電子版)の改定～

薬剤科 徳本 和哉



今回、医療スタッフから薬剤師への問い合わせ、相談を集計・解析し、その結果より得られた各職種が求めている内容を医薬品集に反映させ、より効率的に情報を提供するための医薬品とし、この取り組みを2015年10月に秋田市で開催された第64回日本農村医学会学術総会で発表しました。

薬剤師は患者さんへの情報提供だけでなく、医療スタッフへ用量や服用方法、副作用、飲み合わせなどの薬剤情報を提供することも医薬品の安全使用のために重要となります。

当院を訪れる患者さんの多くは高齢であり、薬剤の用量調節が必要な場合が多くあります。

例えば、腎臓が通常の半分以下の機能になっている場合には、通常の用量では、薬の効果が大きくなり、副作用の出現頻度も多くなる薬剤があります。多くの薬剤の場合、添付文書(薬

の説明書)に腎機能別の用量調節の記載がありません。しかし、そういった用法調節の問い合わせが多くあるため、各種学会、成書をもとに腎機能別の用法調節を医薬品集に追記しました。

また、外観写真、内服薬の粉碎可否、簡易懸濁法(水に溶かして服用する方法)や注射薬の配合変化などの薬剤情報を追加し、院内スタッフが、より直感的に操作、閲覧できるようにレイアウト構成にも工夫を施し利便性を向上させました。

医薬品集の充実は、医薬品の適正使用につながり、延いては安全な医療の提供に貢献できます。

今後も、患者さんの健康のために、相談頻度の高い薬剤の適正使用ガイド等の資料を集集し、より充実した医薬品集になるよう努めていきます。



▲発表資料の一部